

専攻科だより

生産システム工学専攻第一期生入学 -

専攻科長 中 哲夫

生産システム工学専攻主任 葛目 幸一

海上輸送システム工学専攻主任 高岡 俊輔

平成17年度に弓削商船高専に念願の専攻科が設置されました。4月11日に生産システム工学専攻の入学式が挙行され、第一期生として8名が入学し、本校の新たな歴史の第一歩をスタートしました。西垣校長から入学生に「第一期生のみなさんは新しい歴史の担い手として、最高のスタートを切って、輝かしい成果を上げられるよう望んでいます。」との激励の言葉がかけられ、専攻科入学生代表は学生の本分を全うすることを誓いました。

本校の専攻科には生産システム工学専攻と、海上輸送システム工学専攻の2専攻がありますが、海上輸送システム工学の方は10月入学ですので、秋には専攻科第一期生全員が揃うこととなります。一足先に生産システム工学専攻が発足し、新しく高度専門技術者教育の第一歩を踏み出すこととなりました。

校長の式辞の概要は次の通りであった。

『本校は創基から、すでに104年が経過しており、この間、海事系分野と工業系分野の実践的技術者の養成のため、常に発展を続けてきました。ここに誕生した専攻科にも大きく育てて貰いたいと願わずにはいられません。』

この専攻科の設立には、本校関係者はもとより、地元「しまなみ海道」地域の、尾道市、因島市、上島町、今治市、愛媛県、また独立行政法人高等専門学校機構、文部科学省など各方面より大きなご声援とご支援を頂きました。

21世紀に入り、科学技術は急速に高度化、多様化、複合化しており、また、IT革命の進展とともに、経済・文化だけでなく、技術のグローバル化も加速的に進行しています。環境問題、エネルギー、医療、また技術の安全性、危険性の予知・予防など地球的規模の課題が山積みし、技術者に対する期待はますます高くなっています。わが国は、世界有数の工業技術立国として、これまで多くの貢献をしましたが、今後も科学技術の高度化を計り、世界文明の発展に寄与していかねばなりません。そのためにも、次代を担うより深い専門知識を持ち、さらに幅広い視野を有した国際的に通用する若い技術者の育成が重要です。これらを背景として本校に専攻科が設置されました。

専攻科では、より高度で最新の専門的知識と技術力を修得し、大学卒と同じ学士の学位を目指します。ここでは、最先端の専門的知識を受けただけでなく、高度な実践的能力、創造性、技術開発能力あるいは工学的センスの育成を目的としています。この点で高専の専攻科は、一般の工業系大学とは大いに異なっています。専攻科では、7年間の

一貫教育のメリットが生かせるため、大学院修士レベルの専門的技術力の修得も可能です。また、学術の修得だけでなく、ディスカッションやプレゼンテーション能力、報告書（特に論文形式の報告書）の作成能力、国際性を高められるようにカリキュラムを組んであります。』

専攻科での修業年限は2年間であり、専攻科の課程を一定の要件を満たして修了した者には大学・学部卒業と同じ学士の学位が与えられ、世界中の大学院への進学への途も開かれています。

高専専攻科と大学工学部との違いは、入学金や授業料は、高専本科と同額で、旧国立大学のほぼ半分以下の金額です。本科から大学3次へ編入学するコースに比べて、経済的負担がずいぶん軽くなっています。また、専攻科も工学部も、共に「エンジニアの育成」という目的を持っていますが、専攻科教育は次の特徴を持っています。

(国立高等専門学校協会)

専攻科では、技術の下地を持った学生が、工学を学び、研究の経験を積む。

専攻科では、実践的な技術開発研究の訓練を行う。

専攻科では、少人数教育の利点を活かし、セミナー型授業で個性を伸ばす。

専攻科では、手と頭脳が同時に働くタイプの「実践的技術者」が育つ。

生産システム工学専攻(第一期生)

1. 大塚哲弥(機械系)
2. 小林 聖(機械系)
3. 後藤誠司(機械系)
4. 清水陽介(機械系)
5. 中原光一(情報系)
5. 峯松順子(機械系)
7. 森本 猛(情報系)
8. 横田耕一(機械系)

